



出会いが多いまち ふるさと ここは第二の故郷

ミュージシャン Mayumi さん

23歳。大阪府生まれ。12歳のころに父親の転勤で山梨県に移り、山梨の路上で聴いた歌声に衝撃を受け、19歳から音楽を始める。約3年前に佐世保を訪れ、アコースティックギターを手に音楽活動を始める。力強さの中に温かみのある歌声と独自の詩世界が聴衆の心をつかむ。九十九島音楽祭のオリジナルCDに自身作『小さな、船の旅』を収録。
(<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=hitwoman>)

初めて佐世保を訪れてからまもなく3年がたちます。それまでは福岡の路上や喫茶店で歌っていましたが何か物足りなさを感じていました。そんな時、「佐世保に大きなアーケードがあるから行ってこらん」と言ってくれたのは、山梨でわたしを応援してくれている父親でした。初めて佐世保を訪れ四ヶ町アーケードで歌った時、たくさんの方が声を掛けてくれ、「出会いの多いまち」という印象を受けました。そして、最終的にここを拠点に音楽活動しようと思った。

山梨県は山に囲まれ海がなく、わたしは、幼いころから海に対して恐怖心がありました。そのため、佐世保に来てからも海を見つめる機会はほとんどありませんでしたが、西海国立公園50周年を記念して曲を作ることになり、九十九島のことをもっと知らなくてはと、昨年12月に初めて遊覧船に乗ることにしました。わ

小さな、船の旅
～九十九島パルクイーンに乗って～
詞/曲 Mayumi
:
波に揺れ かすかに笑う島の表情
歩き疲れた心を癒すように
果てしなく 広くて深い海は
孤独にさえ微笑んでみせた
:
雲のすき間から伸びる陽の光が
町を照らす瞬間
まるで 故郷のような温もりで
私に教えてくれた
:
まぶたにやきつく永遠の光景
幼き心連れ戻すような...
九十九島に生きる永遠の情景
明日へ続く願い投げた



市内の音楽イベントで歌うMayumiさん

音楽と出会って知る このまちの楽しさ

ミュージシャン ながのともみ 長野友美さん

31歳。川下町在住。福岡のデザイン学校でグラフィックデザインを学び、現在は市内の絵画教室で子どもたちに絵などを指導している。約2年半前から音楽活動を始め、詩情豊かな独自の世界をアコースティックギターと透き通ったやわらかい歌声で表現する。西海国立公園50周年を記念してことし3月に製作された九十九島音楽祭のオリジナルCDに自身作『九十九島』を収録。



九十九島 詞/曲 長野友美
風が遊ぶ雲は流れる 松の梢青い空
ここは西の果ての小さな海
いくつもの島をちりばめた海
:
人の心のように 深い入り江を抱いて
静かにたたずむあの島に
時もたゆとって
:
きらきらきら さざめく波間に
今日の悲しみ流れ洗われてゆく
九十九島よ 旅人の心癒して
:
:



九十九島音楽祭オリジナルCDのジャケット・挿絵は長野さんの作品（CDは市役所観光課で貸し出します）

佐世保はジャズなど音楽活動が盛んなまち。市内には生演奏を聞かせる店もありますが、音楽を始める前には中に入る勇氣がなく、音楽は、テレビやラジオ、CDなどから聞くもので、音楽をする人もどこか遠いイメージがありました。そんなわたしは音楽を始めたのは、近所の音楽愛好家の人が行うライブ（生演奏）に誘われ、身近な人が自分で作った曲を演奏しているのを見て、「自分でこんなことができるんだ」と感激したことがきっかけです。

わたしの夢の一つは、音楽を通して地域を活性化することです。現在は、地元でもある相浦川流域を中心にイベントを企画しています。昨年10月には相浦町の飯盛神社で、ことし6月には田原町の整骨院内で音楽祭を開催しました。今後もさまざまな企画を仕掛けたいと考えています。ことし3月、西海国立公園50周年を記念して「九十九島」という曲を作りしました。九十九島は小さいところからの遊び場で、わたしにとって掛け替えのない存在です。佐世保の豊かな自然環境も、一度失うと二度と元には戻りません。未来の子どもたちが育つ環境を選ぶのは大人のわたしたち。この美しい自然環境をいつまでも残していければと思います。